

# 建設事業の環境負荷算定システム

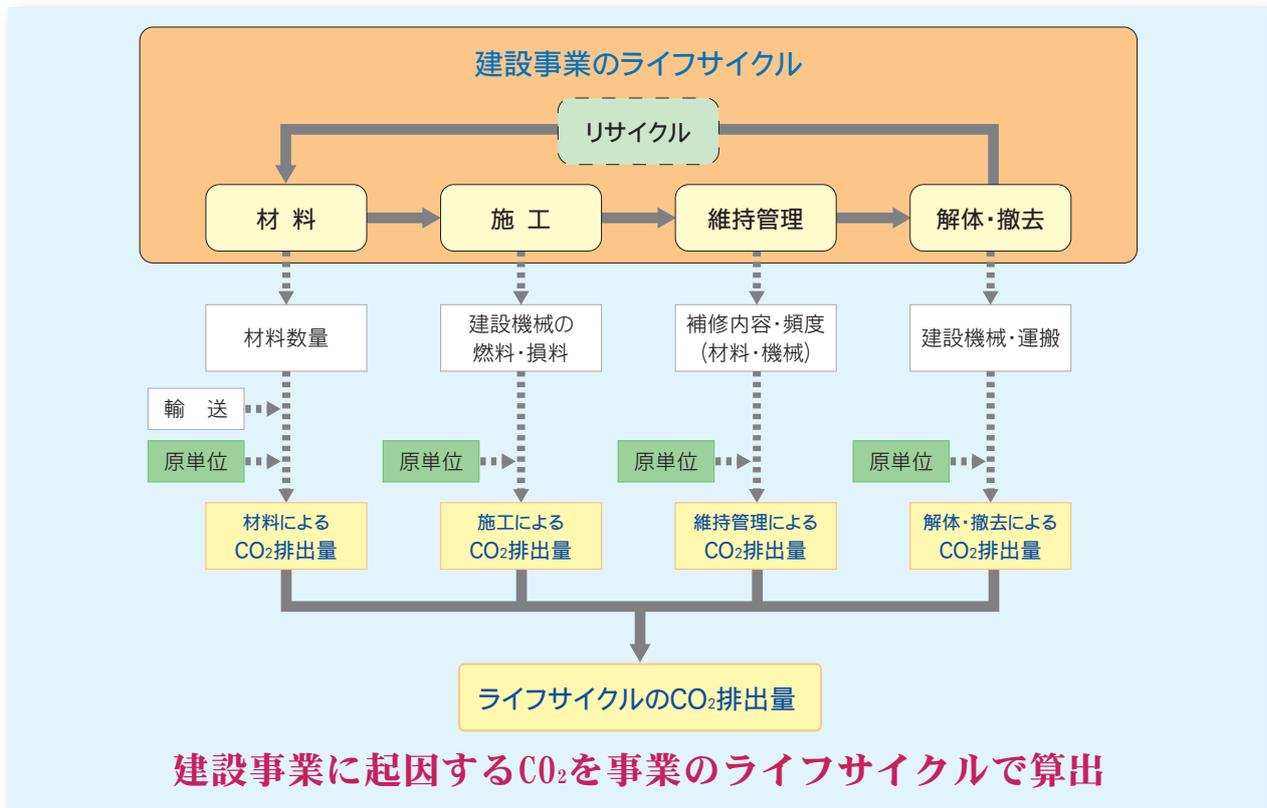
建設事業の環境負荷(CO<sub>2</sub>排出量)をライフサイクルで算出することで、より負荷の少ない環境に配慮した事業の選択と実施が可能となります。

地球温暖化に対し何の対策も講じない場合、100年後には地球の平均気温は最大で6℃上昇すると言われています。そのような中、資源を大量に使用する建設事業は環境へ与える影響も大きなものとなり、環境への配慮は不可欠です。

本システムはLCA(ライフサイクル・アセスメント)の手法を用いることにより、建設事業から発生する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を事業のライフサイクルで算出でき、これらを事業の計画段階で活用することで、環境負荷低減型の事業を採用することが可能となります。

## ■ライフサイクル・アセスメントの概要

ライフサイクル・アセスメント(LCA)とは、環境影響評価手法の一つで、ある製品のライフサイクル(生涯)でどれだけの環境負荷を排出するのかを算定し、定量的に評価する手法で、グリーン調達指標にもなっています。



### システムの特長

- 事業の計画段階での形式選定等に活用できます。
- 数量計算書や施工計画書等をもとに環境負荷を算出できます。
- 算出結果は、複数の事業・形式を比較・検討する際の評価項目の一つとして活用できます。

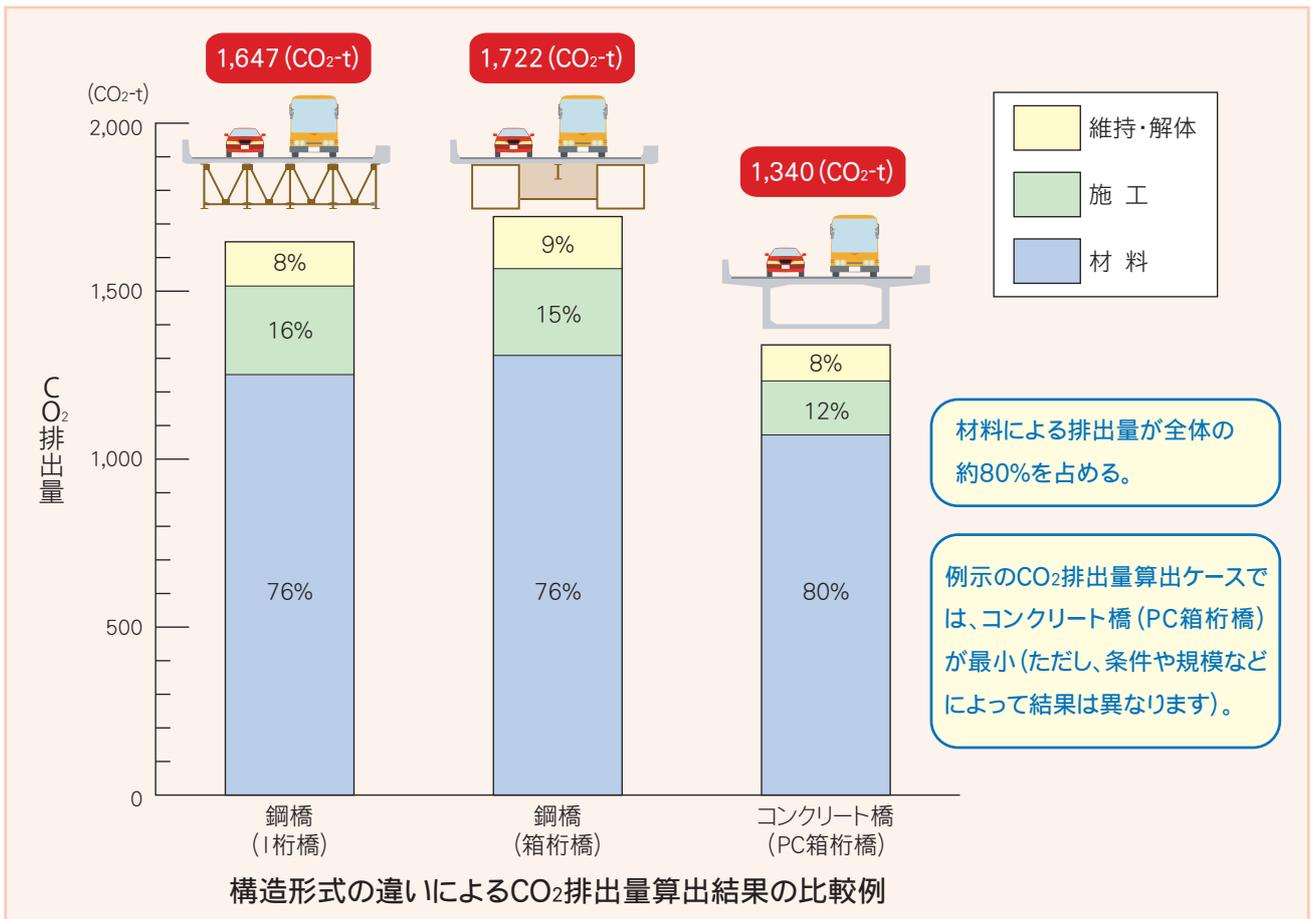
### 分析手法

産業連関表※を使用した「産業連関分析法」により分析を行っています。

※産業ごとの生産・販売等の取引額を行列形式にした指標。総務省が中心となり、各省庁共同で5年ごとに作成。

## ■ 橋梁への適用例

### 橋梁形式選定における比較検討例



※環境負荷の算出は、1.東芝プラントシステム(株)のLCA評価ツール「Easy-LCA」をもとにした環境負荷データベースを利用する方法、2.下記文献に基づいた方法、のいずれにも対応しています。

「社会資本のライフサイクルをととした環境評価技術の開発に関する報告—社会資本LCAの実践方策—」  
(国土交通省国土技術政策総合研究所、公益社団法人 土木学会、平成24年2月)

## ■ 適用のメリット

1. 環境負荷低減を評価項目とした**事業選定、形式選定が可能**になります。
2. 建設事業のライフサイクルを4段階に分類し、「**産業連関分析法**」を適用することで、**環境負荷(CO<sub>2</sub>排出量)を簡易に算出・評価することが可能**になります。



人と地球の未来のために —  
**いであ株式会社**  
<http://ideacon.jp/>



本社	〒154-8585 東京都世田谷区駒沢3-15-1	TEL:03-4544-7600
国土環境研究所	〒224-0025 神奈川県横浜市都筑区早淵2-2-2	TEL:045-593-7600
環境創造研究所	〒421-0212 静岡県焼津市利右衛門1334-5	TEL:054-622-9551
食品・生命科学研究所	〒559-8519 大阪府大阪市住之江区南港北1-24-22	TEL:06-7659-2803
亜熱帯環境研究所	〒905-1631 沖縄県名護市字屋我252	TEL:0980-52-8588
大阪支社	〒559-8519 大阪府大阪市住之江区南港北1-24-22	TEL:06-4703-2800
沖縄支社	〒900-0003 沖縄県那覇市安謝 2-6-19	TEL:098-868-8884
支店	札幌・東北・福島・北陸・名古屋・中国・四国・九州	